

医療費分析結果報告書（概要）

- 平成26年度 -

【1 被保険者の状況】

○平成26年度の被保険者数（月平均）は416,965人であり、前年度に比べて1.37%減少し、組合員数は△0.05%と減少傾向に終息感が見られたが、家族数は△2.55%と依然減少が続いている。（1頁表-1）

組合健保は、前年度から被保険者数が+0.49%、被扶養者数が△1.11%である。

○被保険者の年齢階級別割合では、40歳台が21.13%と最も高い。（2頁表-2）

組合健保と比較すると、45歳以降はすべての年代で全国土木が高くなっている。

○平成26年度の平均年齢は、36.2歳（組合員45.5歳、家族29.0歳）である。（2頁表-3）

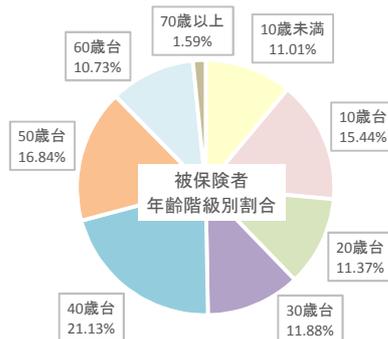
組合健保の平均年齢は34.4歳であり、全国土木が1.8歳高い。

○平成26年度の前期高齢者は20,228人であり、前年度に比べて11.74%増加し、加入率は4.85%となっている。（3頁表-4）

組合健保の加入率は3.01%であり、全国土木が1.84ポイント高い。

○平成26年度の扶養率は1.29人で、前年度に比べて2.27%減少している。（4頁表-5、6）

組合健保の扶養率は0.85人であり、組合健保より扶養率が高くなっている理由は、全国土木は男性組合員の割合が87.3%と高いことに加え、組合員と同一世帯であれば、収入の多寡にかかわらず家族被保険者となることが主要因と推察される。



【2 医療費の状況】

○平成26年度の総医療費は約682億円であり、前年度に比べて1.56%増加している。（5頁表-7）

○1人当たり医療費は、組合員、家族ともに増加傾向であり、平成22年度からの推移をみると毎年2%前後の伸び率で増加し続けている。（6頁表-8）

組合健保と比較すると、最近3年間は組合員の伸び率が高くなっている。

○年齢階級別1人当たり医療費は、前期高齢者納付金に影響する前期高齢者の医療費が高くなっている。（7頁表-9）

なお、全体の1人当たり医療費では組合健保との差が15,251円（10.6%）あるが、年齢構成の影響を取り除くとその差は僅か1,667円（1.2%）となる。

1人当たり医療費			年齢構成を揃えた1人当たり医療費		
全国土木	組合健保	差	全国土木	組合健保	差
158,843円	143,592円	15,251円	145,259円	143,592円	1,667円

○医療費の分布では、入院外が全体の約4割を占め、組合員・家族別に見ると、家族（54.59%）が組合員（45.41%）より9.18ポイント高い。（8頁表-10）

○1人当たり医療費については、すべての診療区分において増加傾向にあり、前年度と比較すると次表のとおりである。

調剤を含む入院外1人当たり医療費は98,972円であり、前年度から2,819円（2.93%）増加していることが平成26年度の総医療費を押し上げている主要因と推察される。

診療区分別1人当たり医療費

診療区分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率	
入院	44,356円	45,300円	944円	2.13%	(9頁表-11)
入院外	64,553円	66,472円	1,919円	2.97%	(16頁表-18)
歯科	18,084円	18,887円	803円	4.44%	(19頁表-21)
調剤	31,600円	32,500円	900円	2.85%	(22頁表-24)
総医療費	158,843円	163,462円	4,619円	2.91%	(6頁表-8)

- ジェネリック医薬品の使用割合は、平成27年3月診療分で54.6%となっている。(25頁図-47)
厚生労働省が策定した目標値である数量シェア60%から5.4ポイント下回っており、組合健保の59.8%からは5.2ポイント下回っている。

【3 疾病の状況】

- 平成26年9月診療分の医療費総額（歯科の疾患を除く）で見ると、入院では組合員、家族ともに「新生物」が最も多く、入院外では組合員は「内分泌、栄養及び代謝疾患」、家族は「呼吸器系の疾患」が最も多い。(26頁表-27～29頁表-30)

なお、各区分で金額が最も多い年齢階級と疾病分類は次表のとおりである。

区分	入院			入院外		
	年齢階級	疾病分類	金額	年齢階級	疾病分類	金額
組合員	60歳～64歳	循環器系の疾患	48,854千円	55歳～59歳	内分泌、栄養及び代謝疾患	35,472千円
家族	0歳～4歳	周産期に発生した病態	31,005千円	0歳～4歳	呼吸器系の疾患	70,958千円

- 前期高齢者の疾病分類別1人当たり医療費は、入院では「新生物」（56,082円）が最も高く、入院外では「循環器系の疾患」（38,219円）が最も高い。(30頁表-31)

なお、組合健保と比較し全国土木との差が大きい上位3疾患は次表のとおりである。

疾病分類	入院			疾病分類	入院外		
	全国土木	組合健保	差		全国土木	組合健保	差
総数	158,883円	132,256円	26,627円	総数	171,291円	143,510円	27,781円
新生物	56,082円	39,241円	16,841円	循環器系の疾患	38,219円	32,041円	6,178円
筋骨格系及び結合組織の疾患	14,530円	10,481円	4,049円	筋骨格系及び結合組織の疾患	19,251円	14,781円	4,470円
消化器系の疾患	5,704円	8,896円	△3,192円	腎尿路生殖器系の疾患	16,124円	13,341円	2,783円

- 前期高齢者の入院医療費の疾病分類別新三要素分析をみると新規入院発生率は「新生物」（51.68%）が最も高く、1入院当たり医療費は「筋骨格系及び結合組織の疾患」（1,954千円）が最も高い。(31頁図-53)

なお、各要素において、組合健保と比較し全国土木との差が大きい上位3疾患は次表のとおりである。

疾病分類	新規入院発生率			疾病分類	平均在院日数		
	全国土木	組合健保	差		全国土木	組合健保	差
新生物	51.68%	40.08%	11.60 P	筋骨格系及び結合組織の疾患	41日	26日	15日
循環器系の疾患	31.58%	26.96%	4.62 P	神経系の疾患	36日	41日	△5日
消化器系の疾患	15.86%	19.75%	△3.89 P	呼吸器系の疾患	16日	21日	△5日
疾病分類	1日当たり医療費			疾病分類	1入院当たり医療費		
	全国土木	組合健保	差		全国土木	組合健保	差
損傷、中毒及びその他の外因の影響	33,048円	39,813円	△6,765円	筋骨格系及び結合組織の疾患	1,954千円	1,371千円	583千円
筋骨格系及び結合組織の疾患	47,996円	52,015円	△4,019円	内分泌、栄養及び代謝疾患	791千円	657千円	134千円
新生物	61,084円	57,204円	3,880円	新生物	1,085千円	979千円	106千円